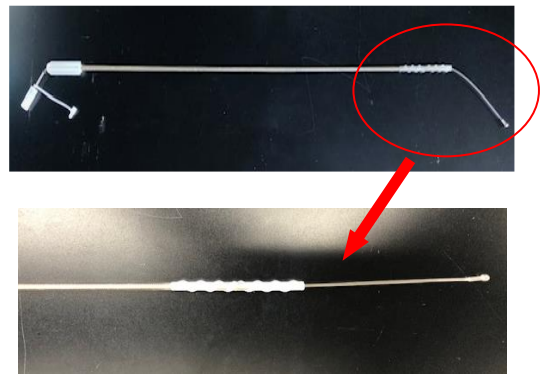


豚受精卵移植時の子宮内環境最適化

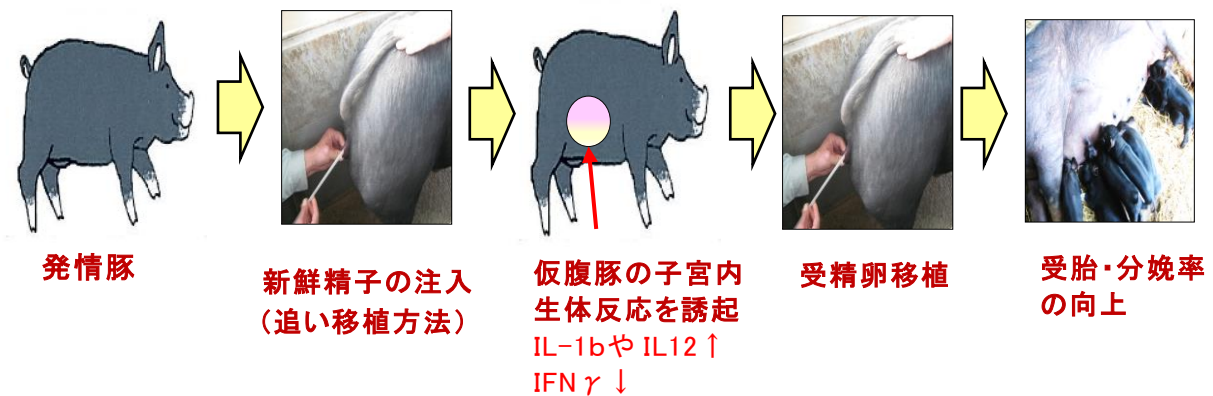
豚の伝染病が農場で発生してしまうと、希少な本県ブランド豚が消失してしまいます。ブランド豚を守るために、あらかじめ受精卵を凍結保存しておき、有事の際は、それらを仮腹豚に移植することで、短期間に豚群の復元が可能になります。本研究では、受精卵移植前に子宮内に精子を注入すると、血中のインターロイキン濃度 (IL1b, IL12) が上昇し、インターフェロン (IFN γ) 濃度が低下する炎症反応が起こり、子宮内環境が最適化されて受胎率が向上することを明らかにしました。



受精卵の移植作業



受精卵の非外科移植器具
(上：全体 下：先端部の拡大)



子宮内環境最適化による受精卵移植フローチャート

(養豚・養鶏担当 TEL 048-536-0440)